



令和3年出入国在留管理庁ヒアリング  
「外国人の子どもに対する支援」  
桃山学院教育大学  
オチャンテ 村井 ロサ メルセデス

～日本の将来を支える多様な子どもたちへの支援～

# ヒアリングの概要

- ・自己紹介
- ・ニューカマーの子どもたちの背景と支援
- ・高校進学と中途退学の要因について



# 講師について

- 名前
- Rosa Mercedes Ochante Muray
- オチャンテ 村井 ロサ メルセデス
- 日系4世のペルー人 / 移民1.5世代
- 1996年12月来日
- 日本での滞在歴24年
- 日本での生活基盤が整っている
- ※未成年であったため、日系3世の扶養として  
「定住者」→「永住者」



# 伊賀市内の中学校→ 上野高等学校定時制→大学

中学校生活1997年1月～3月卒業

私 15歳→中学校3年生

兄 16歳→学齡超過

当時の校長先生の判断で入学

国際教室で、ひらがな、カタカナ、  
小1程度の漢字を学習

1997年4月定時制高校進学

ほぼ日本語ゼロという状態で

兄と高校に入学

当時の校長先生の判断で入学



# 講師について

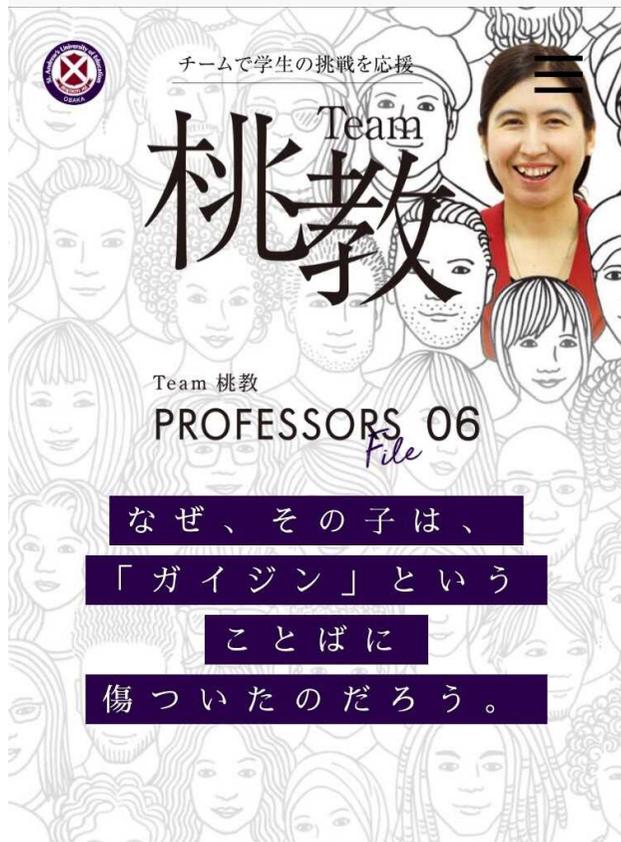
5年間 教育委員会 小中学校教育課 外国人  
児童生徒巡回相談員

奈良学園大学人間教育学部で講師→非常勤  
講師

外国人児童生徒の教育の充実に関する有識  
者会議委員



# 現在：桃山学院教育大学人間教育学部准教授



「児童生徒の育ち・生き方にかかわる課題」  
に対応する課題に対応するための付加価値を備



プログラムを通して、日本語の魅力を実感しながら、その魅力を国内外にいる多様な日本語の学習者に伝える能力を磨きます。みなさんが、教育現場で急増している日本語の指導を必要としている子どもたちに、必要な専門的知識と能力を持って支援できる教員に、さらにグローバル化する日本社会で多様な文化を理解し他者を理解できるスキルを育み、困っている多様な子どもたちの立場に立って考えられる教員になれるように応援します。



【専門分野】国際理解教育、ニューカマー児童生徒の教育、キャリア教育  
オチャンテ 村井 ロサ メルセデス 准教授

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス准教授／Team桃教】

<https://youtu.be/Ew2-q6EvZmM>



# 桃山学院教育大学人間教育学部

帰国性・渡日生特別選抜

海外にルーツを持つ希望者を対象に、これまでの経験や学習意欲を重視するタイプ

選考内容：①書類審査（調査書、志望理由書）  
②特別面接（個人面談/30分）

出願資格：

- ・渡日後、日本の小学校4年以上の学年に入学した者。（渡日後9年以内の者）
- ・日本語能力試験N2以上に合格していること。

※詳細は総合型選抜要項（願書）でご確認ください。

# 主な研究内容

社会学「ニューカマーの子どもたちが抱えている諸問題」三重大学人文学部多文化共存研究センター 2009年

「不況後の日系南米の子どもたちの現状 親を取り巻く環境から学校生活まで」(共著)『教育フォーラム51』金子書房 2013年

「公立の小・中学校の不登校・不適應における生徒指導の課題—外国人児童生徒の困難な体験からの考察—」奈良学園大学紀要第5集2016年

「移民第二世代の進路選択・キャリア形成支援における課題—三重県の事例を中心に—」桃山学院教育大学研究紀要第3号 2020年



# 三重県・伊賀市 Mie prefecture Iga city



伊賀市における外国住民数の現状

・ 5,614人 (伊賀市の総人口90,097)  
人口比 (6.23%)



①ブラジル人 2,213人  
スペイン語話者456人  
(④内ペルーは425人)

↓  
2669人

**全体数の約5割**

②ベトナム 1,025人

③中国人 609人

⑤フィリピン人 409人

↓  
2043人

(出典: 2020年9月末伊賀市在住外国人の現状)



# 意識の変化(三重県伊賀市)

## (90年から2020年まで)

- ・顔の見えない存在から見える存在へと、関心が高まっている。
- ・外国人住民いるのは当たり前、普通、珍しさがなくなった。
- ・学校現場も多様化して、違いを豊かさとして捉える児童生徒も出てきている。
- ・外国人労働者はなくてはならない存在である。



# 30年経っても変わらない労働環境

- 非正規雇用のまま、正社員にせずに期間労働のところが  
多い。
- 雇用期間は概ね3か月から6か月
- 人手不足を補うための使い捨て労働者
  - 残業が多い時には夜まで
  - 仕事が減ると解雇
- 将来、緊急時のための貯金ができず、  
余裕のない生活 → 生活困窮者



# 様々な背景を持つ子どもたち(小・中学校)

①日本生まれの子どもたち、また乳幼児で来日した子どもたちのケース  
→移動する子どもたち(母国と日本との移動)

②学年途中で来日した子どもたち  
例)小3の年齢で来日する子ども



### ③学齡超過の若者

義務教育期間を過ぎた学齡超過の若者が増え、その受け皿が「夜間中学」や「定時制高校」になっている。

中学校夜間学級(いわゆる夜間中学)は10都府県(東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、広島県)に34校が設置されています。

文部科学省→各都道府県に少なくとも1つの設置を目指して取組を進めてる。



# 全ての子どもたちへの支援①

## 来日したばかりの子どもたち

- 初期適応教室の実施
- 継続的な日本語指導の充実

## 日本生まれの子どもたち、また乳幼児で 来日した子どもたち

- 学習言語
- 教科の指導

日本語教育担当者の専門性を養う場を設ける。  
専門性のある教員を活用できていない。



# 全ての子どもたちへの支援②

- イジメまたは差別の防止・対応
- (外人、国に帰れなどの暴言)
- (外見・人種による差別)
  
- 居場所として感じられる学級・学校の必要性
- (受け入れられている、所属感のある)
- バイリンガルを励ます学級
- (恥じることなく、安心して自分の言語・継承語が使える環境作り)



# 内面的な、様々な悩み

- **アイデンティティーの揺らぎ**
- (例) 日本生まれ、日本しか知らないが、日本人ではない。外国人扱いされる
- (例) 日本人でもない、ペルー人でもない
  
- **親子のコミュニケーションツールである母語の継承の重要性**
- ・簡単な会話はできるが、難しい悩みを打ち明けることができない。親に理解されない
- ・通じないから会話が減る等



# 外国につながる子どもたちの就学保障、義務教育後の進路保障

- 国籍を問わず、すべての子どもたちの就学保障
- どの地域においても同じ支援体制が受けられる⇒高校進学制度の格差是正
- 特別入学枠受験、特別措置を受けられる条件も自治体によって異なる



# 「伊賀地区外国につながりをもつ 子どもと保護者の進路ガイダンス」

対象：小学校4年生からの子どもと保護者  
早い段階から高等学校の教育制度、入学するために必要な情報を提供



# 高等学校卒業後のキャリア形成

- ・ **進学傾向の変化**（三重県の事例）

- ・ 高校進学→当然なこととして捉えられ、「一応高校までは出る」という認識が広がった。

- ・ 高等学校卒業後、学校側の斡旋で地元の企業に入ったり、正規の職員・従業員  
(通訳として活躍したり、多様な強みを活かしている。)

⇒しかし、

- ・ 保護者と同じ非正規雇用を選択する者もいる



# 高等学校中途退学の現状、 退学に繋がる要因

- (1) 学力の問題、
- (2) 高校でのいじめ、
- (3) 高等学校の教育制度が十分に理解されていない
  - (保護者にも教育制度の理解、第2言語習得の苦勞の説明等)
- (4) 経済的な問題が挙げられる。
- →要因は一つだけではない。
  
- 将来への展望のない進学をしている
- 入学試験の壁を突破する学力が足りないため
- 自分の将来の実現に近い高校よりもアクセスしやすい高校に進学する  
(限られた選択の中で選んでいく)
- 入学した後勉強についていけない
- →入学後の支援は不十分である。



# 進学する若者の進路形成

「日本籍では45%が大学に進学し、高等教育全体の進学者は約3分2に達しているが、フィリピン、ブラジル、ペルー籍ではそれぞれ1割、2割前後にすぎない」 樋口・稲葉(2018)

## 進学を果たした者の共通点

- ・早い段階から「なりたい自分」という目標設定をしている
  - ・中学校・高校から自信を持てる教科が一つある。
- (インタビュー11名中6名とも英語に自信を持っており、周りの同級生から「発音が綺麗」などと褒めらる)

初期の目標達成・意欲と学業達成との関連。

Cynthia Feliciano & Rubén G. Rumbaut(2005)



# キャリア形成を踏まえた日本語指導も視野に入れる必要

- 初期段階のライフプランニング

社会的資源の限られた環境にいる彼ら、ブルーカラー労働者である保護者からは学ぶのが難しい社会の仕組み、正規・非正規の違い、生涯賃金の概念、お金の使い方等

地域の同じルーツのロールモデルとの交流

(オンラインや映像収録でも可)

高校への「進路ガイダンス」の一環として次のステップである社会人に向けての指導を地域の国際交流協会やNPO、教育委員会などが連携して若者支援に取り組むのが必須



# 私からの願い

誰もが住みやすいと思える日本



日本(地域)の労働力は外国人住民も担っている  
日本語を習得支援＝自立支援

移民の子どもたち、そして今後も増え続ける多様な子どもたちも将来日本の社会を担っていく一員である。

今の支援＝将来の日本への投資という共通理解

多文化共生社会は日本の将来のためにある

子どもたちは国籍、在留資格を問わず、大事な存在である。





ご清聴  
ありがとうございました。

¡Muchas gracias!

Muito obrigada!

Merci beaucoup!

Thank you very much!

非常感謝你 Maraming salamat po



# 【参考文献】

- ・樋口 直人・稲葉 奈々子(2018)「間隙を縫う—ニューカマー第二世代の大学進学 —」『社会学評論』68(4), 567-583.
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス「ニューカマーの子どもたちの義務教育後の進路選択と将来の展望」梶田 叡一 『教育フォーラム54 各教科等の学習を支える言語活動 言葉の力をどう用いるか』 金子書房、2014年8月 pp.118-126
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス「公立の小-中学校の不登校-不適應における生徒指導の課題 —外国人児童生徒の困難な体験からの考察—」奈良学園大学紀要第5集pp.27-35, 平成28年9月
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス「高等学校中途退学の現状と生徒指導の課題—外国人児童生徒における体験からの考察—」人間教育学研究第4号平成29年3月
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス、オチャンテ カルロス「カトリック教会における多言語・多文化環境の実態—三重県伊賀市の事例—」奈良学園大学紀要第7集pp. 167-177, 平成29年9月
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス「ペルーと日本を「移動する子どもたち」の学校生活とアイデンティティの揺らぎ—いじめ、適應にあたっての困難な体験からの考察—」奈良学園大学紀要第9集pp. 31-45, 平成30年10月
- ・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス「移民第二世代の進路選択・キャリア形成支援における課題—三重県の事例を中心に—」桃山学院教育大学研究紀要第3号 2020年
- ・渡辺 マルセロ、オチャンテ 村井 ロサ メルセデス、オチャンテ 村井 カルロス、小島 祥美 2014外国人高校生を応援する仕組みづくりへの挑戦— NPO 法人Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとうの実践報告—ボランティア学研究 Vol.14 pp.45-56

